

第6回学ぶ喜び・ESD連続公開講座 概要報告

- ◇開催日時 平成28年9月29日(木)
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館多目的ホール
- ◇参加者数 11名
- ◇内容

「ESDをめぐる世界の動向」

講師：金沢大学国際基幹教育院教授 鈴木克徳 氏

- ・ユネスコスクールはもともと世界の学校とつながって、ユネスコの理念を体現することがねらいであり、自分の学校だけで頑張っているだけでは満点ではない。日本の場合にはなかなか国内交流ですら少ないという現状がある。外国はかけ離れたものと感じているのではないか。交流する機会を増やしていくと楽しいことを伝えたい。
- ・日本の学校で取り組まれているESDは、必ずしも世界の常識ではない。外国ではどんなESDをしているのかを視ることが大切だ。日本と似ているところもあり、そういうところとの交流は、互いに学び合える機会となる。違う地域もある。例えばインドでは、仕事を創り出している。持続可能な生業をどうつくっていくのかという、日本では見られない取組がある。しかし、違いがあっても、みんなが安全で安心して暮らせる社会が目標という点は、同じであり、各地域の現状を背景とした取組、切実性のある取組が展開されていると捉えるべきだろう。仕事を創り出している。



◇ESDに関する2つの世界的潮流

1970年代頃から環境教育が幅広く実践されるようになってきた

1972年：国連人間環境会議（ストックホルム会議）

かけがえのない地球 環境教育の重要性を指摘

1990年代には、ヨーロッパで活発化していた

1992年：国連環境開発会議（リオサミット）

アジェンダ21 ESDの観点を入れて教育プログラムを再編しよう。

2002年：持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグサミット）

ESDの10年は日本が提唱して始まった

・2つの世界的潮流

①環境教育における議論

②高等教育における議論

東ヨーロッパを課題とした取組が早くから取り組まれてきた

・国連が考えたESDの学び方、は次の3つだけだった

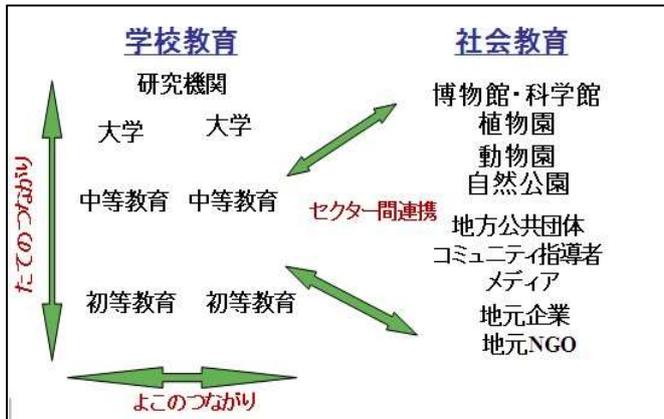
ESDを通じて学びたいこと（世界的な方針）

①身の回りの自然や社会について関心を持ち、学ぶこと（認識能力の育成）

②身近な社会や世界とのつながりから、持続可能な社会とは何かを考え、自分たちの価値観やライフスタイルを見直せるようになること（批判的な思考力の育成）

③学ぶだけでなく実践する力を身につけること（実践力の養成）

※ESDの学習は、日本の文科省が提唱する「生きる力」を身につけることとほとんど同義
 国連大学のESD推進戦略（RCE）



・ESDの地域拠点の推進・地域範囲の考え方・大学を含むプラットフォーム(対話の場づくり)の構築

・高等教育機関による地域への貢献

◇2014年ESDに関するユネスコ世界会議の成果

①あいち・なごや宣言

今後のESD推進に向けた人々への呼びかけ

②グローバル・アクション・プログラムの開始

5つの優先行動分野を特定

政策的支援・機関包括型アプローチ・教育者・若者・地域社会

③ユネスコ/日本ESD賞の創設

【成果】

- ・ESDの10年後のESD推進の枠組みを世界的に合意したこと（GAPの採択）
- ・2015年9月採択の国連持続可能な開発目標（SDGs）の中へのESDの位置づけ
- ・日本では、学校教育政策の中で明確に位置付けられた
- ・ユネスコスクールの数は飛躍的に増えたが、全国の学校に占める割合は未だ極めて小さい
- ・社会教育の中でのESDの普及はまだまだ進んでいない

◇教育・学習の再方向付け

- ・世代内の公正への着目（アメリカとサハラ砂漠周辺地域の栄養摂取量の差）SD in ESD
- ・あらゆる分野での人材育成の中にESD的な考え方を取り入れていかなければならない。

◇世界のESDへの取組例

○日印協力によるインド グラム・ニディ地区

「コミュニティの生物多様性保護に向けた企業化アプローチ」に関する研修マニュアル開発プロジェクト
 地域住民の間に持続可能な気づきを進める

環境にいい技術やスキル、知識を開発し広げていく

企業においてエコな方策を取り入れ管理する能力を強化する

地域でマイクロ金融を用いたエコ企業を設立する

この地域におけるESDとは、ずっと食べていけること

地域の中小零細企業に着目し、マイクロ金融を取り入れて零細企業の育成を図る。

エコロジーに関わる企業活動を促進し、持続可能性を確保する。

色々なステークホルダーが連携することで持続可能性を確保していく。

4つのE

- ・ 経済的サポート、サービスの拡張、エコ企業精神、環境保全
- ・ 地域がこれまで顧みなかったものからの商品化 新しい生業をつくっていく 市場化
- ・ ESD の基本は貧困の撲滅、女性の地位向上、食っていける社会の構築
- ・ 学校教育だけが ESD の舞台ではない

○タイの小学校における ESD

自分たちが取り組んだことを他の学年の児童に発表していた

小さなバタフライガーデンやビオトープがあった。立派な施設でなくていい

リサイクルに取り組んでいる。通帳をつくって、リサイクルのためにもってきたものの重さを測って、通帳に記帳している。日本と同じような取組、日本よりも工夫のある取組がある。交流することで学び合いができると思う。

やっていることは日本でも海外でも変わらない。交流できるのではないかな。共有できると楽しいんじゃないかな。それがユネスコスクールというネットワークを作ったときに考えていたことだと思う。子どもにとって、言葉は交流するときに不可欠なものではない。

まず、海外交流してみよう

